

## 令和3年度 事業所訪問について

男女平等オンブドの事業所訪問は、令和4年3月末で276事業所となりました。年間20事業所を訪問するという計画を立て、事業所における男女共同参画について状況を把握すると共に、女性の就業分野拡大、役職登用、育児・介護休業制度の活用等について周知啓発を行うこととしています。

昨年度に続き今年度も、コロナ禍において事業所を訪問させていただくことは難しく、上半期は、書面で質問に答えていただく形となりました。その結果、書面訪問11事業所、訪問9事業所となりました。各事業所とも、書面訪問にも関わらず質問事項に丁寧に回答していただきました。

訪問した事業所(書面・来訪含む)は20事業所で、規模については、1,000人以上が1件、50人から100人未満が1件、50人未満が18件でした。その中で、越前市輝く女性活躍応援団へは、5事業所から賛同をいただくことができました。

全体的な感想としては、コロナ禍のなか、その対策はもちろんのこと、ウェブ会議を活用する等の働き方改革についても、積極的に取り組んでいる事業所が増加している点が印象に残りました。女性労働者の管理職の地位にある女性が依然として少ない状況にはありますが、定年後も再雇用として働き続ける労働者が増加しています。また、SDGsの取組みについて、昨年度はこの言葉や考え方が聞こえてこなかったのですが、今年度は、SDGsに取り組んでいる内容について、社長自らが説明される事業所もあり、浸透してきたと感じました。こうした貴重なご意見は、今後の男女共同参画の推進を図るうえで、参考にさせていただきます。

こうしたなか、「越前市輝く女性活躍応援団」の賛同事業所も平成30年設立時、市内126事業所でしたが、令和4年3月末で177事業所となりました。今後も、この「越前市輝く女性活躍応援団」への賛同を推進し、さらなる女性活躍の支援と企業のイメージアップを図りながら、事業所訪問を行っていきます。

なお、訪問にあたっては、訪問の趣旨を説明し理解を求めるとともに、この訪問が事業所にとってメリットとなるよう、参考になると思える情報の提供や雇用管理上の助言等に努めました。男女共同参画センターが実施している出前講座の活用についても資料を手渡し紹介しました。

どの事業所も協力的であったことに感謝しています。

## \* 各事業所の状況、感想等について

- ・コロナ対策としては、消毒・検温・パーテーションはもちろんのこと、出社の体温は、37.5°ではなく37度とし、9月までの出張は控え、会議はウェブ対応とした。
- ・働き方改革については、連続5日間の有休取得も徹底して行っている。スーパーフレックスを進んで活用している。
- ・育児休業については、男性2人が取得中である。週1日、30日間取得できる。
- ・言葉の端々にSDGsの言葉・考え方が出ていて、さすが、本社が東京なので、進んでいる感じを受けた。
- ・コロナ禍の中にもかかわらず、売れ行きは順調で、外国にも販路を拡大しているとのことで、素晴らしいことである。
- ・コロナ禍で、お家時間が増えたこと、料理をする時間が増えたこと、高村3兄弟のテレビ放映の影響もあり、必需品の包丁が見直されている。長く使うために、値段の高い包丁が求められる傾向があり、景気は良いと話された。
- ・SDGsについては、包丁の研ぎなおしにより、使い捨てにならず、環境に配慮した取り組みとなっていると話された点が印象に残った。
- ・これからは、女性が活躍する時代なので、館長やマネージャーも女性をと考えていると話されたことは、特筆すべき点である。
- ・従業員は大切にしないといけないと考えていると言われた点は、なるほどと思った。
- ・半面、コロナ禍における国の対応等について、大企業中心の補助金等ではなく、当市のような中小企業をもっと大切に考える補助金に、是非見直してほしいと切実に語られた。
- ・育児休業等についても、主旨はよくわかるし、対応もするが、正直、長期休まれると苦しい状況になるのが中小企業の本音であるとも付け加えられた。
- ・亡くなられたパートナーの跡をついでの代表取締役、今後の活躍に期待とエールを送りたいものである。
- ・社長は、SDGsについては、これに取り組んでいないと、信頼がなくなる時代だと話され、なかなかこの言葉が浸透していないと感じていたが、進んでいる印象を受けた。ほかの会社にも浸透してほしいものである。
- ・縫製会社で、実習生を受け入れることは知っていたが、建設会社で実習生を長年にわたって受け入れている会社を訪問したのは、初めてであった。
- ・定年を65歳に引き上げる予定であり、やる気のある人は、何歳まででもフルタイムで勤めてもらう。現在も72歳でフルタイム勤務の再雇用者がいると話された。